

もっと知りたいふるさと

81

八幡の水



上水道完成記念碑

武水別神社入口左側に「上水道完成記念碑」があるのをご存じでしょうか。表面には詩人、佐藤春夫作「水道開通記念」詩の「月雪花に好き里八山近くして水澄めり」とあります。裏面には松林天さんの書で「建設誌」として「本村の上水道八多年の宿望に属し」と、上水道布設の経過と関係した多くの方々の名前が彫り込まれています。八幡地区住民にとって昭和29年に全村に布設された「上水道」は何にも勝る「大きな喜び」であったと思います。では、上水道布設前の飲料水及び生活用水の確保はどのようにしていたのでしょうか。

八幡といっても12地区（集落）があり、八幡宮周辺の平坦地部、八幡上水道の水源に近い山手部とその中間部、と地形や条件が違ってきます。

そこで令和元年に「八幡を知る会」のメンバーによるアンケート調査を実施しました。調査によると、八幡地区は粘土質の土壌で井戸を掘っても水量は豊富とはいえず、酸性水地帯もありました。平坦地でも井戸を持つ家は少なく、多くは飲用水を中心に地区内にある数少ない「共同井戸」の水を利用していました。その他の生活用水は上流を湧水源とする流水や小河川の水との組み合わせ利用でした。一方、流水・小河川の上流となる中山間地には井戸が極少だったため、現上水道の水源となつている湧水を地区内各戸に水路を敷き、飲用・生活用水として利用してきました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違っていました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出し」の一端を紹介いたします。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課だった②週1・2回の近所での持ち回り共同風呂、共同井戸は近隣の交流の場であった③当時、井戸



上水道布設工事の写真を絵で再現（三村乃史子作、八幡公民館所蔵）

掘りは「家を建てるか、井戸を掘るか、大頭祭を練るか」くらいの大事業であった④小学生のころ、上水道布設工事に参加し、埋める土砂を運ぶのに1回1円をもらった。本管と支管を埋める工事があり、支管（各戸への引き込み管）は各戸の労力で行われた⑤上水道が完成し、老若男女村民挙げての大きな喜びであった。小学校の上空にはセナ機が祝賀飛行をし、大勢の人々が日の丸の小旗を振って歓声をあげていた光景をおぼろげに覚えている。

「上水道」は県下においては長野市が大正4年に、上田市は大正12年に給水を開始しています。現千曲市最初の上水道は旧稲荷山町の昭和11年でした。開始が早かった背景に、旧稲荷山町は井戸・河川の水の水質が悪いこと、上水道布設の経済力があつたためとされています。

八幡上水道は、昭和29年に開通し、その後、桑原地区に3ヶ所の簡易水道が布設されました。川東地区は、東山や

千曲川の伏流水利用の井戸水が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年（43年）まで井戸水の利用が多かったのです。戦後の苦しい村財政下、村有林の木を売り、村民総出で水道布設工事を行い、完成した水道の蛇口から噴き出す「八幡七頭の水」を飲み、水汲みの苦労から解放された喜びは今の私たちに想像できません。先人たちの苦労を思い「水は大切に使わなければならない」と当たり前のことですが、改めて思います。参考資料 八幡を知る会「八幡の水」 八幡公民館長 宮崎 衛



峯区水道管布設工事中にパチリ

公民館報

ちくま

No. 81 2021.8.1

長野県千曲市



七夕に願いを込めて

稲荷山公民館では、6月末から来館者の方々に短冊に願いを書いてもらい、玄関に七夕の笹飾りを設置しました。短冊には新型コロナウイルスの終息を願う内容が多く見られました。

【主な掲載記事】

各館の活動報告…………… 2～3  
 特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験…………… 4～7  
 もっと知りたいふるさと…………… 8

特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験

もっと知りたいふるさと

82

善光寺地震犠牲者慰霊塔

はじめに 稲荷山荒町の湯ノ崎に「弘化大地震犠牲者慰霊塔」が建立されているが、あまり知られていないためこの機会に紹介することとした。

今から174年前の弘化4年(1847)に長野県の西北部から上越にかけて発生した大地震は、折しも善光寺の御開帳開催時であったことから「善光寺地震」と呼ばれている。

マグニチュード7.4、推定震度7以上と云われ、平成7年1月17日早朝発生した阪神淡路大震災に匹敵するところで、地震災害と火災で稲荷山に未曾有の大被害をもたらした。

凄まじい惨状の記録

この地震で多数の死者が出たが、その凄まじい惨状は稲荷山の庄屋松林弥五右衛門の記録に残されている。それによると、宿場町・市



善光寺地震慰霊塔

その後、稲荷山の人々はこの地震を教訓にし、防災に主眼を置き地震対策として土台は堅固

場町・商都として栄えていた稲荷山には善光寺の御開帳に向かう沢山の旅人が宿泊しており、「更級郡誌」には建物の倒壊や地震直後に発生した火災で、町の住民284名、旅の人180名の方々が犠牲になり、被害にあった家屋は220戸に及んでいると記載されている。犠牲となった旅人の甲い

地震の教訓を生かし

地震の発生が午後10時頃であったため、町内4か所から火の手が上がり、みるみる燃え広がった。消火に手間取り、鎮火まで3日間を要したと記録が残されている。

宿場町としての面影は一瞬にして消え去り、焼け残ったのは元町を



善光寺地震犠牲者供養(令和3年5月)

な湯ノ崎の切石を用いた亀甲積とし、建物は火災に強い土壁や漆喰塗りの重厚な造りとした。

このような商家は現在もなお残っており、「多様な建築群の残る善光寺街道の商都」として、平成26年12月に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたのである。

我々に課せられた課題

この善光寺地震の被災は稲荷山の防災の原点として位置付けたい「災害史」である。

これまでの地域役職を担っていた方々が中心となって昭和40年頃から約50年間、被災者の供養を行って来たとのこと、多いときは市長や県議他100人程の参加者で盛大だったようであるが、現在は主催者の高齢化等により取り止めになっている。

平成29年5月7日、「一般社団法人稲荷山暮らしと心を育む会」が主催し、善光寺地震発生170年慰霊祭が行われた。大勢の参加者が慰霊塔に合掌し、近隣の3か所の寺院の僧侶により長雲寺で執り行われた合同供養に参加した。次年度からはまちづくり推進会議が引き継いで行っている。以前犠牲者の関係者が立ち寄り、整理と管理されている慰霊塔に感激したとの話があるが、これは近くにお住まいの方のご尽力によるもので、そ

地域で未永く供養を続けたいものである。30年度稲荷山まちづくり推進会議 井浦克己 (参考文献) 「この町のかたち」宮下健司著 (二社) 稲荷山暮らしと心を育む会発行

る。以前犠牲者の関係者が立ち寄り、整理と管理されている慰霊塔に感激したとの話があるが、これは近くにお住まいの方のご尽力によるもので、その方に敬意を表しながら、



善光寺地震慰霊塔周辺図



いろいろな生き物がいたよ

現代公民館では、7月30日(金)に、小学生の親子を対象とした『自然三浦次生動物教室』を開催しました。きれいな川にしか生息しないといわれるサワガニやカワガニなどが採集できました。観察が終わった後は生きたサワガニを三浦川に帰してもらいました。

特集 成人式 楽しかったよ! 夏休み

主な掲載記事

- 特集 成人式..... 2~4 わがまちの自慢・リレーエッセイ・文化祭お知らせ..... 5 特集 楽しかったよ! 夏休み..... 6~7 もっと知りたいふるさと..... 8

もっと知りたいふるさと

83

千曲警察署の歴史

本年3月、当署は、昔の千曲警察署の建物に使われたという鯨と木製の柱を屋代公民館から寄贈していただきましたので千曲警察署のルーツを調べてみました。

明治20年1月1日、それまで上田警察署が管轄する屯所や分署（今ではその名称はなく交番のような施設）として旧戸倉村や旧屋代村に所在していた警察機関が、屋代警察署に昇格し、発足しました。

その年の6月には、屋代にある今の高見町信号交差点近くの旧J A屋代支所の建物付近に、木造2階建ての擬洋風建築の警察署が新築されました。この場所に建設された背景には、地元住民の誘致と建設費の寄付がありました。そのことを物語るように、落成式では花火が打ち上がり、神楽も出て、なんと約3万人の見物があったそうです。



写真①明治20年～昭和6年 屋代警察署（宮下紘一氏所蔵）



写真②昭和6年～34年 屋代警察署から国家地方警察屋代地区警察署（『長野県警察史』）

ちなみに、明治政府の方針は、1つの郡に1つの警察署の設置を原則としましたが、屋代警察署は例外として、一時期には埴科郡と更級郡両郡を受け持つ大規模署でした。

大正末期となる大正15年6月、県知事は、突如警察署の統廃合を発令し、屋代警察署を含めた県下3署が廃止となりました。これを知った地元住民は強く抗議し、約2千人が県庁に押しかける騒動となり、多数の検挙者も出ました（屋代町住民が最多の検挙者数でした）。

いわずやめる警廃事件です。しかし、その事件後、県知事と警察部長のトップ2人は騒動の責任をとって辞職したうえ、廃止令からわずか7か月後に屋代警察署は悲願の復活を遂げたのです。

昭和6年、手狭となった屋代警察署のために、それまで埴科郡役所として使われていた建物を屋代町から斡旋していただき、警察署が引っ越すことになりました。ところが、今の屋代公民館のある場所となります。

写真①は、明治20年に今の旧J A屋代支所があった場所付近に建てられた屋代警察署の全景です。よく見ると、その瓦屋根には屋代公民館からいただいた鯨と同じ形のもの

が載っているのがわかります。写真②は、今の屋代公民館の場所にあった屋代警察署の全景です。その玄関を見ると、立派な柱が4本設置され、その装飾は、まさに屋代公民館から寄贈された柱と同じでした。このような経緯があり、鯨と柱が今の屋代公民館に残されていたのです。

太平洋戦争を経て間もなく、屋代警察署は、国家地方警察屋代地区警察署に名称が変わりました。



昭和34年～平成3年 屋代警察署から更埴警察署へ



平成3年～現在 更埴警察署から千曲警察署へ

りましたが、数年後には再び屋代警察署に戻り、昭和34年、今の粟佐の地に移転しました。同年に更埴警察署、平成15年に千曲警察署に署名が変わり現在に至っています。

数えてみたところ、警察署の前身である屯所を始まりとすると、名称は合計12回、所在地は合計10回も変わっていることがわかりました。

しかし、今でも変わらないことは、千曲警察署は地元住民の誘致や寄付、警廃事件を

受けた復活等の支えや期待があつて存在しており、私たち警察職員は、そうした尊い歴史のある警察署で働いているということなんです。

私たちは住民のための警察であり、その治安を守る使命があることを改めて思い起こさせていただきました。

千曲警察署 総務課長 斉藤壮弘



寄贈された鯨と門柱

公民館報

ちくま

No. 83 2021.12.1 長野県千曲市



えびず学級が再開

10月6日(水)から上山田公民館でえびず学級が再開しました。参加した学級生は「羊毛フェルトに挑戦!」と題し、来年の平安である「貞」を制作しました。表情もいろいろで味のある作品が出来上がりました。

【主な掲載記事】

- 戸倉・上山田地区文化祭……2～3 各公民館の活動報告
- 講座・事業紹介……4～6
- サークル紹介・リレーエッセイ……7
- もっと知りたいふるさと……8

もっと知りたいふるさと

84

永昌寺と戊の満水

令和元年10月の台風19号では、千曲市も大きな水害に見舞われました。今から279年前の寛保2年(1742)8月1日に、千曲川水系で歴史上一番の水害「戊の満水」がありました。この洪水は台風による集中豪雨が千曲川上流地域で降ったためと言われています。特に、被害が大きかったのは小諸で、死者5百数十人、松代藩全体では死者1220人と記録にあります。殖生地帯では寂蒔が大きな被害を受け、水の深さは一丈二尺(3.6尺)になり、65軒が流失し、158人が亡くなられたと古文書に書かれています。永昌寺の檀家さんは153人が亡くなられ、その時作られた「水死萬霊等」の合同位牌が本堂に祀られ、毎年お盆前の「施食会」の法要でご供養しております。



水死萬霊等

当時の永昌寺は、国道18号線沿いの丸善食品の北側、周りより少し小高い土地であった小字「法正寺」の場所でありました。古文書『永昌寺記』によると「境内も崩壊した殿堂は流出を免れ、家屋を流された方七十余人が寺に寝食すること百有余日を救えた」と記されています。

現在確認されている流死者の供養塔・石碑・慰霊碑は流域に16基あるそうです。また、小諸佐久地域では8月1日に墓地に集まり、今でも供養をしているそうです。殖生の地域でも8月1日に同姓の方々が早朝お墓に集まり、全員で掃除する行事も「戊の満水」後に始まったと思われれます。

東山山麓に移る

今後水害に遭わないようにと、永昌寺は延享3年(1746)10月、永昌8世越城来随大和尚の代に現在の地に移されました。なぜ現在の場所を選んだのか?それは石垣を築くための石が裏山にたくさん露出していたからです。永昌寺の北側に沢があり、そこを登り



見事に築かれた石垣

切った東山中腹に「水晶谷」と呼ばれている場所があります。昔の子どもたちは東山に遊びに行き、水晶を拾った場所です。子どもの頃はどうしてもそこだけ不自然にえぐれて、谷のようになっているのか考えもしませんでした。実はそこから岩を切り出し、転がし落とし、石垣を築き伽藍の土台にも使われたのです。今でも直径1尺以上の石がゴロゴロとして谷になっていきます。私の知る限り、東山で石垣を築くための大きな岩がたくさん採れる所は、ここ「水晶谷」だけだと思います。地元では古来よりここから採石し、家の土台などに使われ

たと思われれます。

永昌寺の石垣を築いたのは誰なのか?記録がないのでわかりませんが、以前坂城町の方が訪ねて来られ、「昔、上五明に石工の集団が居た」という噂を調べていまして、真相は不明です。ご存じの方がいましたら教えてください。

永昌寺住職 佐藤昌邦  
参考文献  
信濃毎日新聞社『寛保2年の千曲川大洪水「戊の満水」を歩く』青木隆幸『研究ノート「戊の満水」覚書(信濃第六十五巻第九号)』



永昌寺の全景と東山

公民館報

ちくま

No. 84  
2022.2.1  
長野県千曲市



祝!成人おめでとう

1月8日・9日の2日間、上田県文化会館において令和3年度千曲市成人式が開催され、お慶び 68名 年中 471名の新成人の方々が成長しました。上校は8日開演、下校は9日開演の成人式実行委員の皆さんです。コロナ禍の中での式典は市長・米廣の両方に祝辞をいただき、小学校区ごとに写真撮影を行いました。

特集 成人式

〈主な掲載記事〉

- 特集 成人式 ..... 2~5
- 第26回更地地区短評型文学祭
- 入賞作品 他..... 6~7
- もっと知りたいふるさと..... 8

もっと知りたいふるさと

85

郷土上山田を愛した 農村歌人 山崎 等先生

この川にひとつとなりて流れゆく 親しさを見よ 水の心の

これは、萬葉公園にある頌徳碑に刻まれた短歌である。この短歌を詠まれた山崎等先生は、生涯を上山田に捧げ、地域の人々から慕われた歌人であった。

一 生い立ち、短歌の世界へ等は、明治19年(1886)、更級郡上山田村漆原地区の農家に生まれ、手伝いの合間には、俳句作りをする文学少年であった。

25歳頃から信毎歌壇に短歌を発表し始め、号は柏村。

日を幾日蚕を飼ひつかれいえのもの だまりうつむき桑抜きてゐる

この峡に死にてゆきたるちのみの 父の世をつぎ 畑打つわれは



晩年の山崎等先生

百姓としてこの農村に生きていく信念、ふるさとへの愛を短歌に詠み続けた。

大正4年(1915) 29歳で、太田水穂が主宰する短歌雑誌「潮音」の同人となり、昭和6年(1931) 45歳の時、彼の歌集「桑の實」(874首収録)を発売した。

等の短歌の作風については、「野趣と放逸と哀愁の中に、苦しい農村生活がうたわれている。しかし、その歌に意外に暗さがないのは彼の円満な人柄のためだ」と賞された。

二 政治の舞台へ

① 上山田温泉街を守る 日中戦争が起きた昭和12年(1937)から4年間、上山田村長として村政に力を注いだ。しかし、戦争が激しくなり「遊興、享樂は、追放すべし」という統制が高まり、温泉客どころではなくなった。

等は、温泉組合長と共に「各旅館を提供するから傷痍兵を入れてほしい」と陳情するなど、国策にうまく順応して温泉街を維持しようと奔走した。多くの旅館に



万葉歌碑(左) 清水信夫歌碑(中) 山崎等の頌徳碑(右)

傷痍兵が入り、軍需工場の寮としても活用され、疎開児童も受け入れた。こうして、温泉街は守られた。

② 万葉歌碑で観光振興を 信濃なるちくまの川のさざと比る者舞(万葉集 恋の歌)

昭和12年、等と清水信夫(上山田小学校教師)らの手で、この歌の万葉歌碑建設が具体化する。碑の揮毫は万葉集研究で有名な佐々木信綱博士。戦争激化で、この短歌が刻まれた銅板は回収の危機にさらされたが、銅板は供出されず密かに隠された。 暗い戦争が終わり、昭和25

年(1950)に隠されていた銅板を使い歌碑は完成した。完成の祝辞で佐々木博士は、「この万葉歌碑は、戸倉上山田温泉の一つの名所となるであろう」と述べている。等も観光としての名所をつくりたい、この歌碑を温泉の宣伝と誘客の一つとしたと考えた。郷土を愛してやまなかつた。

三 戦後の復興期と等は村長退任後、上山田農業会長、農業委員会会長などを歴任し、凶作にあえぎ、貧しく希望がなかった農村を新農村へと樹立すべく努力した。

昭和41年(1966)、万葉歌碑がもとで名付けられた万葉橋が竣工した。 また、この万葉橋の竣工に

併せ、等を慕う人々の呼び掛けで、万葉歌碑の隣に等の頌徳碑が建てられた。

等はこの2年後、昭和43年(1968)4月6日、多くの人々に惜しまれつつ82歳の生涯を閉じた。石川啄木はじめ、武者小路実篤など多くの文人と交流があり、素晴らしい歌人であったが、中央文壇へ進出することなく、この故郷に生涯を捧げたのである。

ふるさととは閑古鳥なきて静かなり 土耕してここに死ぬべし

前上山田公民館長 児玉孝義 参考文献 「上山田町史」「上山田公民館報」「上山田の風土」(上山田小学校)「近代短歌のふるさと」(信濃毎日新聞社)

公民館報 ちくま No. 85 2022.4.1 長野県千曲市



八幡公民館の展示発表会

八幡公民館では3月2日(水)から5日(土)まで、公民館利用者や地域の皆さん作品を展示しました。八幡保育園の園児たちの作品も展示しているので、毎年見に来てください。 来年こそは賑やかな発表会になるといいですね。

主な掲載記事

- 各公民館の活動報告..... 2-3
各公民館新年度行事..... 4
成人講座紹介..... 5
成人講座受講生募集..... 6-7
もっと知りたいふるさと..... 8

もっと知りたいふるさと

86

大池区を分断した一本松ルート  
(中央道長野線)

それは大池区民にとってまさに、晴天の霹靂であった。昭和56年1月1日、『信濃毎日新聞』の一面に次の見出しが躍った。

『聖トンネル断念』中央道長野線豊科以北ルート

この路線は既に聖湖(麻績村)の下部をトンネルで通過し、中原区へ出るというルート(聖トンネルルート)がほぼ決定していたからである。変更理由は、「掘削すれば出水は必至」であった。

新たな整備計画路線図では、「新ルート(通称一本松ルート)は大池地区を横切る」というものであった。そして、この日から約1年



大池区内を二分する長野道

間、大池区は地元の分断に対し絶対反対の意思を持って闘っていくことになる。

大池区民の総意

3月3日、大池区民は臨時総会において、「大池高速道対策委員会」の設立と役員選任を行い、その場で高速道通過反対を決定した。

運動の経過

3月11日、「更埴市西部農協中央道対策委員会」が設立され、長野線に関する交渉窓口の一本化を図るため、大池高速道対策委員長も常任委員として参加することになった。

3月30日、大池公民館において、区民への高速道の説明が初めてなされた。

4月24日、常任委員会、「姨捨地区技術委員会」(代表・芥川真知埼玉大教授)より詳細な調査結果が発表され、最終結論として「当山岳地帯の長野線通過路線としては、一本松ルートしかあり得ない」と伝えられた。

これに対し、大池高速道対策委員会の代表者は、5月1日、市長・高速道長野事務所長に対し陳情書を作成し、

「中央道長野線の路線は、当集落の分断及び高架を絶対に避けること」と書面をもって提出した。

5月15日、更埴市西部農協中央道対策委員会が提出した陳情に対する回答の中で、高速道の幅が250メートルであることが判明し、「大池地区については分断もやむを得ないと考えている」と伝えられた。

7月になると250メートル幅については、大池区以外ほぼ了解の意思表示をしていた。しかし、大池区は、当初から絶対反対をしてきたので最後まで反対の態度を貫くことをあらためて意思確認した。

8月になると大池区には、行政の関係者が来訪し、250メートルの必要性や区上部ルートの困難さを説明した。他地区も条件闘争に入っているという情報を得て、大池区でも「反対もよいが、いつまでも反対していても問題がある。時機を見て受け入れることも考えたかどうか」との意見も出始めていた。

大池区は、その後も反対表明を続けていたが、12月9日、市長の「市は責任を持って大池地区に対して努力するの

で市長に任せて欲しい」という言葉に、委員全員が「市長の発言を信頼し、250メートルを認めることで意見が一致した」として、対策委員長の音頭で手打ちをし、遂に一本松ルート案に賛成の意思表示をした。

12月12日、更埴市西部農協中央道対策委員会の代表者は、市長に対し、発表された250メートルの受け入れと、基本的要望事項を履行するよう申し入れを行った。

そして5日後の17日、市長は長野県知事に対し、変更路線計画帯の受け入れと全線路線定着を申し入れ、ここに大池区の反対闘争は終結した。現在中央道長野線は大池区内を二分して走っているが、区民の心は決して分断されてはいない。



「聖トンネルルート」から「一本松ルート」に変更(『更埴市史』より)

参考資料

- 「高速道長野線記録」
- 「更埴市史」

大池区民 白井裕之

公民館報 ちくま No. 86 2022.6.1 長野県千曲市



八幡公民館のいきいき学級開講式 5月12日(木)、八幡公民館では令和4年度のいきいき学級がスタートしました。第1回目は「歌声サロン」です。稲荷山福祉会の庄丸明美さんの楽しいおしゃべりと歌に、終始笑顔がいっぱいの時間でした。 特集 わがまちの自慢

分館長さんへ聞きました	2
分館長・編集委員の紹介	3
公民館人事・公民館に期待すること	4
特集 わがまちの自慢	5
サークル紹介	6
リレーエッセイ	7
もっと知りたいふるさと	8

もっと知りたいふるさと

87

戌の満水で被災した福井神社と芝宮神社

寛保2(1742)年の戌の満水は千曲川流域に大災害をもたらした。福井神社は埋没し、芝宮神社は流失した。福井村と上戸倉村は隣接した村だったが、正保の初め(1644年頃)、北国往還に上戸倉宿・下戸倉宿が開設されたとき、上戸倉村の人々は上福井に集団移住して、上戸倉宿を造った。

福井村では、産土神として建御名方命を上福井宮林の地に祀り、諏訪大明神と称した。創建年代は不明だが、故滝沢利平氏は元中年代(1384~1392)と推定している。戌の満水は小滝沢の土砂を押し出し、社地・社殿が埋没した。ご神木の杉の大木も根元に土砂が堆積した。そこで地続きの裏山の斜面を隣地の村持ちの山と地替えて、延享4(1747)年に現在地に社殿を再建した。このとき近くの字市神にあった市神社も同じく洪水で流失したの



福井神社鳥居をくぐって進むと芝宮神社の鳥居がある

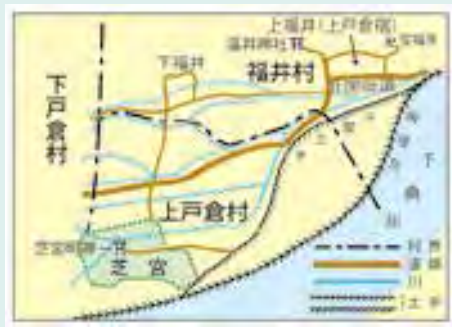


左：福井神社社殿 右：芝宮神社社殿

で、祭神の事代主命(えびす様)も合祀した。その後、拜殿が造営され、何回か造替も行われた。現在のもものは、平成22年に新築されたものである。ご神木の杉は、いつしか立枯れとなり、昭和32(1957)年に伐採され、その切株が残っている。樹齢400年余、直径77センチ、洞の深さ3メートルである。

芝宮神社 下戸倉村の俳人、虎杖庵三世宮本八朗が天保10(1839)年、子孫に書き遺した「宮本文書」によると、芝宮明神は昔、上戸倉村・下戸倉村と福井村の三村が一体だった頃、諏訪の建御名方命を戸倉村の惣社として新戸倉温泉の芝宮に勧請した。芝宮の地は元和8(1622)年、上戸倉村・下戸倉村に村分けされたとき上戸倉分となり、惣社芝宮明神も上戸倉村の産土神となった。戌の満水でこの芝宮明神は社地・神宝を悉く土中に失った。その後、上戸倉の玉井佐兵衛が社地を縮めて畑にしようにとした際、神鏡一面が掘り出された。神鏡は以後、大切に保管した5人の手を経て、昭和56年芝宮神社の立替工事完成祝の際、最後の保管者宮本家から240年振りに芝宮神社に奉還された。

政6(1794)年、上戸倉村の人々は、福井神社の社地の一部を地替えてもらい、字宮林の福井神社の隣に芝宮神社を遷座した。このとき上戸倉村と福井村の両村は一緒に社殿を造り替えることとなり、寛政9(1797)年まで4か年にわたって、石段・石橋・石垣・広庭・社殿などを造営した。以来、何回かの修復はあったが、両社仲良く並んで今日に至っている。かつて両神社の氏子は、福井村が福井神社、上戸倉村が芝宮神社であったが、戦後磯部区(上戸倉と上福井の人々が入り交じっている)の住民はすべて芝宮神社、福井区は両社同日に行われ、宵祭には雄獅子の福井神楽と雌獅子の芝宮神楽が相次いで奉納さ



下戸倉村・上戸倉村・福井村の村界図

参考資料 『戸倉町の神社・仏閣』『戸倉町史談会誌 とぐら』第16号 「我が福井の村誌」

れ、賑やかであった。現在では祭日は同じだが、神楽はそれぞれ別の区で独自に行っている。 福井 滝沢 弘

公民館報 ちくま No. 87 2022.8.1 長野県千曲市



楽しくきれいに和やかに 5月21日(土)、戸倉公民館で「親子いけばな教室」が開催されました。ペットボトルを花器にした初めての生け花体験です。センスの光る素敵な作品がたくさんできました。 特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験 文化祭のお知らせ 短詩型文学祭の作品募集 成人式のお知らせ

もっと知りたいふるさと

88

稲荷山の境界紛争

今から164年程前の安政時代、稲荷山と杭瀬下・新田との境界紛争があり、稲荷山の敗北の結果、一部が野高場の地名で残ったという歴史がある。

その当時の千曲川は、現在のように堤防が完備されておらず、毎年洪水が発生し、本流は定まった形ではなかった。そのため農地が移動し、村境紛争が絶えなかったようだ。

平成17年「ちようま第25号」に掲載の宮澤芳己氏の論文「稲荷山と杭瀬下・新田との境争いによる野高場」によると、安政3（1856）年、2月には大きな境界争いとなり、稲荷山では幕府寺社奉行所へ出訴している。その内容は、

「稲荷山の千曲河原の農地を杭瀬下・新田の者達が千曲川を越えて勝手に耕作している」という趣旨のものである。

この辺の状況をさらに掘り下げた資料によると、野高場は千曲川の中州であり、杭瀬下村と新田村の人々が船で千曲川を渡り耕作をした「地割慣行土地（水害常襲地帯で水害の危険を分散するため農地を集落共有地としさらに団地に分け、持分権を持った人が割り当てられた共有地を耕作した共有地制度）であった。

当時、地番の決め方は冠着山・飯綱山・妻女山を見通して方位を定めたようだ。安政5（1858）年3月より寺社奉行吟味物調役が現場検地に出張して来たが、さらに訴状では

「これは貞享年間（1684～1687年）八幡村との境界争いの時、御裁許の絵図面にも明らかであるように、冠着山より唐猫明神の森を見通した線が昔からの境で在ります。何分杭瀬下・新田の百姓を止めさせてください」とある。

この検地に際しては、総人数37人という前代未聞の大掛

かりなものだったようで、検地役人の滞在宿舎は、杭瀬下・新田村の色部義太夫宅であった。測量中の役人の用便は一般人足とは違い、体面を保つため移動便所を運ぶ役割の人もいたようだ。

検地は稲荷山の平坦地は勿論のこと、篠山を始め横手山・田原山・佐野山の明細等まで桑原村より提出を求めたり、文化9（1812）年の稲荷山村対杭瀬下・新田村境議定書を参考に、現在の治田町旧道の八幡往来から東へ10間のところに一番杭を打つ等して綿密に行なったことが記録されている。

この境界紛争は、徳川幕府直轄の天領の杭瀬下・新田と上田領の稲荷山ということも影響したものと思われるが、結局は稲荷山村の全面敗訴となり、千曲川の西に肥沃で広大な杭瀬下村野高場が存在することとなった。

その後、昭和の時代になり長い間孤立地で隔離状態に耐

えていた野高場の住民は、杭瀬下村と埴生町の合併の際に分村陳情に踏み切った。しかし、それぞれの意見の一致が見られず敵しい状態となっていました。

そんな中ではあったが、林虎雄県政下、知事の勧告に基づき昭和30年9月25日の埴生町議会において正式に境界の変更が議決された。

さらには、この野高場は昭和34年6月1日、更埴市誕生と共に大字杭瀬下より分離独立して大字野高場となり、行政区は稲荷山地区に編入され現在に至っている。

もちろん、そこに住む稲荷山1400戸、4200人の住民と野高場270戸、680人の住民は大字は分かれていても、一体となって地域の発展に尽くしていることは言うまでもない。出訴により検地に出

向いて来た役人の中に、文学に優れた御勘定評定所留役の高木源六郎がいた。彼の歌碑が稲荷山治田神社境内に残されていたが、古くなり、とりに平成16年に新たに建立された。「更級や治田の神にぬさむけて 里やすかれと祈りつるかな」と記され、また、杭瀬下・新田の色部一族の高原神社跡地には、

「行かよふ雁よつばめよいたづらに すぐる日数を空ふみせて」の碑がある。

野高場 塚田富雄 参考文献 「ちようま第25号」



千曲川の堤防に沿って南北に長い野高場(左側)



新たに造られた高木源六郎の歌碑



野高場の位置図

もっと知りたいふるさと

89

生萱村の地を  
紹介します

「生萱」と言っても、市内で知っている人は、わずかしらないのが現状ではないでしょうか。

生萱は千曲市の北東にあり、土口・雨宮・倉科・森地区と長野市松代町清野に境を連ねた山懐にある小さな集落です。

また、旧生萱村は、北山・東山・南山と西の平地に囲まれた山裾に存在した「石原・生萱・大門・宮崎」の四つの小集落を併せて生萱村と言われ、そのまま現在の生萱区になっています。現在、この生萱の集落を一望するには、大浦山（別名：森將軍塚古墳）の頂上から東方を見下ろすのが一番よく確認できます。

生萱村について、明治の初期に刊行された『生萱村史』の記述を参考に振り返ってみたいと思います。

生萱には古代はもちろん、弥生時代や古墳時代にも人が居住していたと思われ、古老の説や古碑、村史などにより、明らかに集落として伝えられている村里は、「八代（屋代）一重山」の東より

「清野山」の西までの「大穴郷」の地であり、この郷には4つの村里「生萱・生仁・土口・雨ノ宮」の地があり、その他にも村があったと伝えられています。また、雨ノ宮・森・倉科・生萱・土口・岩野を総称した「生仁郷の里ながし」と書かれたものもあるといわれております。

また、生萱は、平安時代の天曆の頃（947～957年）に「大穴郷」、文治の頃（1185～1190年）に「大穴庄」に属していたとあります。

村の起源や「生萱」の名がどんな謂れであったのか、いろいろな伝えがあるようですが、確かなことは不明のままです。

今に残った遺跡や古文書、言い伝えや呼名、名刹や古刹、近隣に残る古史から、村の起りや出来事、自然環境や残されている遺跡や祭りなど、現在までの過去を追ってみたいと思います。

我が家のそばにある生仁遺跡から東方を見ると、北の唐崎山、目の前の鳥見山越しに

太郎山（別名花柄山）や東山尾根が見えます。東南には生萱沖田んぼの上に鷲尾山が望めます。

生萱村の地形は、北山の唐崎山から明聖、柴山尾根を経て、東の生萱最高峰天城山、北山から繋がった大城、また太郎山の山脈、東山につながる南山の鷲尾山尾根に囲まれています。開けた西は今では水田を抱えているが、その昔は、大沼池があり、三滝川、沢山川を受けて生仁川で締めくくった山懐の村であったと伝わっています。

字には24の字地名が残り、その小字の下には100もの小地名があり、ものづくりと山仕事と共に語られ残っています。生萱村を抱える山や山麓には將軍塚や、多くの古墳など三十数個もの遺跡があったと伝わっていました。今は「生萱の七塚」を始め、十数個ほどしか確認されていません。古墳や塚などがあることから、弥生時代や古墳時代にはすでに住居などが存在していたと思われ。

生萱 相澤忠一



生萱村 今と昔の重ね地図  
「生萱ぶらり歴史散歩」（生萱を知る会発行）より引用

もっと知りたいふるさと

90

歴史にみる鑄物師屋

善光寺が建てられた640年頃、人々は水田を作り生活をすするようになり、いくつかの集落が集まり「郷」が作られるようになり、鑄物師屋地域も「船山郷」として早くから開けたと言われています。船山郷は千曲川の東岸、旧更埴市屋代町の南方、旧戸倉町の北方に位置していました。船山郷の名は、五里ヶ峰より有明山に至る山容が、郷の間にぬっと突き出た舟形に似ていることから付けられたと言われています。

室町時代には船山郷に守護所が置かれ、その位置は鑄物師屋の屋敷地区（現在の船山神社の近辺）という説があります。その頃の権力者は、お



有明山に至る舟形に似た山並み

宮などに鐘楼や灯笼を寄進するために鑄物師（いもじ・いものし）を抱えており、その鑄物師がここに来たので鑄物師屋の名が付いたのではないかと考えられます。しかし、鑄物師屋地籍に守護所があったのか不明であるため、鑄物師が本当にいたのかも分かりません。「鑄物師屋」には、船山郷の中心である守護所があり、鑄物師がいたので、この地名が「ついた」と古き世に思いを寄せて考えたいものです。

このように、地名の由来ははっきりしませんが、検地が行われた江戸時代には鑄物という地名が残っています。また、寛保2（1742）年の地図には、鑄物師屋村と記載されており昔の村の形を見ることが出来ます。

江戸時代、鑄物師屋村は天領として治められていました。江戸から明治になり新たな中央集権国家をつくる中で、明治9（1876）年には、鑄物師屋村・寂時村・打沢村・小島村・桜堂村の5か村が合併し、東船山村と称されました。しかし、明治15（1882）年には、この5か村が分離独立し、元に戻ってしまいま



令和2年に掘り出した埴生村道路元標(左)と宮坂喜昌頌徳の碑(右奥)

た。それから7年後、明治22（1889）年、町村制度実施により再度5か村が合併され埴生村が誕生しました。明治25（1892）年には現在の埴生小学校の地籍（鑄物師屋字清水）に村役場が置かれ、57年間、埴生村の村政が行われました。その後、昭和23（1948）年に埴科郡埴生町となり、杭瀬下村との合併、五加村の中区の編入を経て、昭和34（1959）年の更埴市になるまでの12年間も、同所で埴生町の町政が行われました。

このように鑄物師屋には役場が置かれ、埴生村・埴生町の中心地でした。このことは現在の埴生小学校校門横にある「埴生村道路元標」（1919年設置）からも伺われます。

また、鑄物師屋出身の宮坂喜昌（1805～1890年）は学問を極め、寺子屋を開き、門弟は数百人にものぼりました。彼の徳の碑は埴生小学校の入り口に立てられています。さらには、喜昌の子、東平（1831～1912年）は初代埴生村の村長として、十数年にわたり村政を司りました。東平は父、喜昌が書いた文集「麓の塵」の中の『埴科の埴（土）のいよいよ豊かにして桑が繁茂し栄える』の願いを受けて「埴生村」と名付けたと言われています。

（同会は鑄物師屋地区の伝統文化継承、新たな

鑄物師屋ちよこつとおせつ会 代表 寺澤和治

文化創造、地区の子どもたちの健全育成を目的として活動している）



鑄物師屋小字地図 区誌「ふなやま」より引用

参考資料 区誌「ふなやま」

公民館報

ちくま

No. 90 2023.2.1 長野県千曲市



祝！成人おめでとう

1月7日、8日の2日間、令和4年度千曲市成人式が信州の幸あんずホールにおいて開催され、対象者636名中430名の新成人の皆さんが出席しました。上段は7日開催、下段は8日開催の成人式実行委員の皆さんです。

コロナ禍での式典は市長・米養の皆さんに祝辞をいただき、小学校区ごとに写真撮影を行いました。

特撮 成人式

（主な掲載記事）

- 特撮 成人式……………2～5
- 第27回更埴地区短歌文学祭 入賞作品 他……………6～7
- もっと知りたいふるさと……………8 (鑄物師屋地区)

もっと知りたい  
ふるさと

91

学童疎開を受け入れた  
上山田温泉

上山田温泉の上山田ホテルには太平洋戦争末期から戦後にかけての4年間、日本初の体が不自由な子どもが「東京都立光明国民学校」の学童疎開を受け入れた記念碑があります。

1944（昭和19）年、米軍による空襲が激しくなり、5月には国の政策で集団学童疎開が始まりました。光明学校の松本校長（以下同校長）は、なんとかしてより安全な町か村に疎開させたいと願ひ東京都や世田谷区に相談しましたが、国民学校の疎開だけで手いっぱいである光明学校の疎開を考へることはしてくれませんでした。

光明学校は、やむを得ず世田谷本校に「現地疎開」をしました。寄宿所で寝泊まりし、空襲時は校庭の防空壕に避難しました。戦況が悪化する中でも、都や区は光明学校の疎開先探しには動いてくれませんでした。同校長は、自分で疎開先を探すしかないと決意し、1945（昭和20）年3月、長野市の東京都長野

出張所へ向かいました。長野市に着くと、既にどの旅館も健常者の疎開児童で満杯。その時居合わせた役人が「上山田温泉にあるかも知れない」と教えてくれました。同校長は早速、上山田村役場に向かいました。上山田温泉は、当時約1000人の豊島区の疎開児童が各旅館で生活しており満杯の状態でしたが、相談を受けた若林村長（上山田ホテル主人）は、同校長の熱意に押され上山田ホテルで受け入れることを決めました。

5月15日に児童、付き添い、職員など総勢148名（疎開出発時人数）が上山田ホテルに到着しました。児童、職員の移動は校長が当局と掛け合い、汽車の車両とバスを貸し切りにし、生活用品や医療器具は陸軍がトラックで輸送しました。軍事優先の当時としては異例なことでした。

上山田に着いた10日後に東京の校舎は空襲で焼失しましたが、子どもたち



上山田ホテルに建てられた記念碑

ちは間一髪、命拾いをしました。

大都市部の普通学校の学童疎開は1946（昭和21）年3月末で終了しましたが、肢体不自由児の教育に必要な代替施設がなく、光明学校の疎開生活は焼失した校舎が再建された1949（昭和24）年5月までの約4年間続きました。

子どもが疎開しなければならぬ時代が二度と来ないで欲しいとの願ひから2017（平成29）年5月に「肢体不自由児学童疎開の地」の記念碑が、ホテル玄関前に建立されました。

同校長は、「疎開先がなかなか決まらず、上山田村の村長さんが、私のところで引き受けると言ってくれたことは、いままさながら命の恩人として感謝してもきれない」と第1期光明学校卒業生の学童疎開記録の中で語っています。

疎開に協力した鉄道や輸送の関係者、ホテル関係者、野菜の差し入れなど地域の人々の善意が、肢体不自由児学童たちの命を守ったのです。

上山田 宮島 信明



引率の教師が描いた子どもたちの絵

参考文献  
「信濃路はるか」光明学校の学童疎開を記録する会議編『信濃毎日新聞』『毎日新聞』他

公民館報

ちくま

No. 91  
2023.4.1  
長野県千曲市



お菓子作りに挑戦！

2月11日（土）に上山田百成会と共催し、上山田公民館主催の「親子料理教室」が戸倉公民館で開催されました。当日は、親子8組20名が参加し、協力をしながらカップケーキを作りました。手作りのおいしいカップケーキが出来上がりました。

《主な掲載記事》

公民館学童活動実績発表会・地区文化祭……………2～3  
公民館からのお知らせ……………4  
令和5年度各公民館行事紹介……………5  
成人講座受講生募集……………6～7  
もっと知りたいふるさと……………8  
（上山田地区）

もっと知りたいふるさと

92

小船山の延命地藏尊



近くに寄ってお顔を拝すると、善光寺のおびんずる様ほどではないが、

右の短冊は、某女性の仏前にAさんが供えてくれた短冊で、延命地藏尊(以下、お地藏さんとする)の赤い頭巾を作っていた彼女を悼み、持参してくれたものである。お地藏さんは昔も今も小船山にとつて大きな存在である。『小船山分館全面改築記念誌』に付属する「小船山の生いたち」(以下、区史とする)の記載について、Aさんからお聞きした話を付け加えて紹介してみたい。

明治22(1889)年、隣り合う5カ村が合併して五加村となった。やがて村を縦貫する大動脈、五加線が開通した。お地藏さんはその五加線小船山南入口に座している。



小船山の延命地藏尊

目鼻立ちが少し明瞭さを欠く。「お守りにとお地藏さんを削っている現場にAさんの知人が行くわし、その者を叱りつけたことがあった」ことや「前はもっとよいお顔だった」ともAさんから聞いた。区史に「口承では、村の女衆が満水の後の川原に出かけ、流れ着いたらしいお地藏さんを見つけ、魅入られ、家に帰って旦那に話し、その男衆がもっとこで運んできて達所場※に安置した」となっている。

寛保2(1742)年の千曲川大洪水は「戌の満水」として重く語り継がれている。これについての区史の記述に、「流死体累々 達所場に無縁仏として埋葬し供養した」とある。また別の個所にも「埋葬した場所は亡骸で高く盛り上がり、今でも小高く・・・」との記述がある。お地藏さんはその埋葬場所に安置されているのである。この大水害で堤防の切れた上徳間・内川・寂詩の近隣3カ村で27人が流れ死亡した。これは小船山村民とほぼ同数である。彼岸のお中日の例祭では、その丸い盛り土を囲んで大数珠を廻し、「南無阿弥陀仏」を合唱してきた。

昭和58(1983)年、五加線拡幅のため、地藏堂宇を2畝余り移し全面改築した。その基礎工事で削った盛り土の下から人骨が出たため、Aさんは、「言い伝えられている通りだったと拝みました」と話されている。

いろいろ見聞きするうちに「お地藏さんの場は小船山の女衆のコミュニケーションの場、交流の場になっていて、

それこそがお地藏さんのご利益の一つであったのではなかったか」と思った。お地藏さんの言い伝えが川原での女衆とお地藏さんの出会いから始まっているのには、そんな意味が暗示されているように思える。小船山の女衆の玉ネギ体験指導、協同の味噌造り、地粉のうどん作り、嫉捨棚田のボランティア等々、進取の気風のルーツはそこにあったのではと思う。

冒頭の信女は、いよいよ重くなる病の床で、夫に信頼する友の名を挙げ、タンスの赤い布をもって訪ねてほしいと頼んだ。7年経つ今もその方が頭巾を作っている。前区長さん、Aさん、お地藏さんの世話人の方々いろいろなお話をお聞きし、写真もお借りした。 ※村の共同墓地 島田國孝先生論文『名所から見た小船山守護所』より



大数珠を廻し、合掌する人たち

公民館報 ちくま No. 92 2023.6.1 長野県千曲市



御柱祭行われる 4月15日(土)・16日(日)に戸倉水上布奈山神社の神事「御柱祭」が1年遅れで行われました。上の写真は「一之柱」を曳行している様子です。200年続く御柱祭に使用する赤松は長さ13.65mで、今年も無事にお祭りが終了しました。 特集 わがまちの自慢 (主な掲載記事) 新分・支館長さんに聞きました... 2 ※5年分・支館長・編集委員の紹介... 3 公民館人事・公民館に期待すること... 4 特集 わがまちの自慢... 5 サークル紹介... 6 リレーエッセイ... 7 もっと知りたいふるさと(小船山地区)... 8

もっと知りたいふるさと

93

大池の百八灯と小松姫



108基の塔

大池地区（大池新田村）は、徳川家康の養女・小松姫が真田信之（真田昌幸の嫡男で幸村の兄。後に松代藩初代藩主となる）に嫁いだ際に、化粧料として小松姫に与えられた土地と伝わっています。小松姫は徳川四天王の一人である本多忠勝の息女であり、天正17（1589）年に真田信之への輿入れにあたって、徳川家康の養女となりました。この輿入れは、戦国時代に「表裏比興の者」として恐れられていた真田家に対し、徳川家との結び付きを深め、真田家を徳川方に引き込む狙いがあったものと思われま

す。この狙い通り、関ヶ原の合戦の際には、真田昌幸・幸村父子が石田三成の西軍、真田信之が徳川家康率いる東軍に分かれて戦うこととなりました。西軍に与した昌幸が下野国（栃木県）犬伏から上田城に向かう途中で、上野国（群馬県）沼田城に立ち寄ろうとした際、沼田城を預かっていた小松姫が「たとえ親子であっても敵を城内に入れることはできない」として、昌幸を拒絶したというエピソードも伝わっています。元和6（1620）年に小松姫が病で亡くなります。その2年後に真田信之が松代に移封されると、大池新田村は小松姫の菩提寺である松代の大英寺領となりました。大池新田村では「大暗庵」というお堂を建て、小松姫を「万年様」と呼んで親しんでいました。

大池区では、近年まで小松姫の命日にあたる2月24日に供養を続けてきました。「大池の百八灯」は、小松姫の遺徳を偲んで始まったと伝えられている送り盆の行事で、平成27年に千曲市無形民俗文化財に指定されました。毎年8月16日の夕暮れ時、一本松峠に向かう街道である古道（大道）にワラで108基の塔を作り、上部から順番に火を点けていきます。最後に点火する塔は松や竹などを使ってひととき大きく作られていて、勢い良く燃え上がる様子は、ふもとの八幡の集落から見ることができません。「大池の百八灯」は、地区の子どもたちが主体となって行われてきました。少子化で子どもの数が少なくなったため、現在では大池区全体で行われています。歴史と伝統のある民俗行事が今後も末永く継承されていくことを願ってやみません。千曲市歴史文化財センター

小野 紀男



送り火の様子



大池集落

娯楽サービスエリア(下り)

百八灯が行われる街道

公民館報

ちくま

No. 93  
2023.8.1  
長野県千曲市



熱気あふれる好プレー！！

6月11日(日)、上山田公民館主催の支分館報普ソフトバレーボール大会が、上山田農業者トレーニングセンターで行われました。目も心もくぎ付けにする好プレーの連続でした。

特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験

〈主な掲載記事〉

- 各館の活動報告…………… 2～3
- 短評型文学祭作品募集・成人式のお知らせ…………… 3
- 特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験…………… 4～6
- これからも平和を願って…………… 6～7
- 文化祭のお知らせ…………… 7
- もっと知りたいふるさと…………… 8 (大池地区)

もっと知りたいふるさと

94

宮坂静生先生の句碑

龍洞院に建立

篠ノ井線がすぐ近くを走る桑原の小坂に、龍洞院があります。季節の花々を楽しむことができ、「お花のきれいなお寺」と訪れる方がたくさんいます。

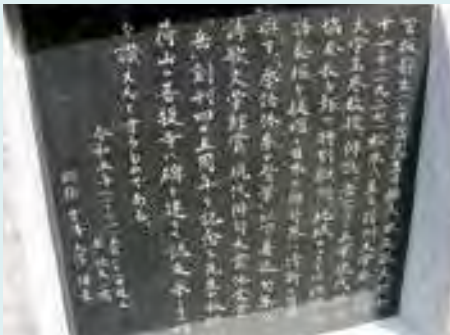
この度、龍洞院の八角観音堂とふれあい観音さんの間の敷地に、次の句が建立されました。

はらわたの熱きを待み鳥渡る

この句は、松本市出身の俳人、現信州大学名誉教授の宮坂静生先生が、自身が主宰して刊行している俳句誌「岳」にて詠んだ句であります。宮坂先生は、お父様が稲荷山のご出身であり、龍洞院のお檀



句碑 表



句碑 裏

家さんです。

また、私の母方の曾祖父とも俳句を通じて親交があり、曾祖父の葬儀の弔辞では、

木曾谷の花を率ゐてみまかりし

と、曾祖父への惜別の句を詠んでくださいました。そのよ

うな有難いご縁もあります。去る5月21日に無事、除幕式を迎えました。

宮坂先生はこれまでたくさん

さんの俳句を詠んでこられたが、数多くの作品の中からこの句が選定されました。平成9年の9月、長野県高山村の山田牧場にて、霧雨の中を5、6羽の渡り鳥が飛び立つ様子を見て生まれた句です。「はらわた」と聞けば、「は

らわたが煮えくりかえる」という熟語を思い浮かべる方も多いでしょう。人間が抱いた激しい怒りをこらえることができないという意味で使われています。

この句の場合は、渡り鳥の内部（はらわた）に貯め込んだエネルギーを燃焼させながら、各地を旅しているという「生き様」が感じられます。

渡り鳥が飛び立つ瞬間、ま

ず1羽が飛翔し、青空に大きく翼を広げ、それに促されるように別の鳥たちが飛び立ち、編隊をなして次の目的地へ向かいます。その間、目的地までは何千キロという長い道のりですが、迷うこともなく、生きるため、命を繋いでいくためにただひたすらに羽を広げ飛んでいます。そんな鳥たちの生命力、命の燃焼を宮坂先生はこの一句に詰め込んだのではないかと思います。仏教の言葉に「而今」という言葉があります。今、この瞬間を生きるという意味です。ここ数年はコロナ禍で先が見えない時期が続く、各地で相次ぐ戦争、北朝鮮によるミサイル発射、自然災害等、未来への不安が募る世の中となっています。

ですが、過去や未来に憂いていても仕方がありません。今できることは、この1日1日を懸命に生きる、まさに渡り鳥のような「あるがまま」を生きていくという心の持ちようが大事になってくるのではないかと思います。

今回建立された宮坂先生の句碑とともに、皆様の拠り所となるよう、僧侶として精進して参ります。(俳句誌「岳」2023年5月号参照) 龍洞院 南澤 享全

公民館報

ちくま

No. 94 2023.10.1

長野県千曲市



修行体験をしました

7月26日(水)、上山田育成会と上山田公民館が主催で「お寺で過ごす一日修行体験」を上山田新山地区にある龍性寺で開催しました。坐禅・書写・講話・心の道場など約40名の児童が参加し、いつもの生活ではできないことをたくさん体験しました。

特集 夏休みの思い出

【主な掲載記事】

- 特集 夏休みの思い出…… 2-3
夏山ハイキング…… 4-5
サークル紹介・わがまちの自慢…… 6
ラリーエッセイ…… 7
もっと知りたいふるさと…… 8

(桑原地区)

もっと知りたいふるさと

95

生萱村の地を紹介します(その2)

昨年12月号では概要をお伝えしましたが、今回は史跡について紹介したいと思います。



埴科縣神社

天がありました。道祖神等の供養塔跡などは、今も残されています。

現在も、天正10(1582)年に建立された蓮華寺、慶長10(1605)年、観音堂から昇格した観音寺があります。

市内に残っていない本誓寺は慶長15(1610)年松平忠輝により倉科村から松代城下に移され、生萱村には天正元(1346)年から永禄2(1559)年まで21年間あったと伝わっています。

また、興正寺・禅透院は森に移されています。

神社では埴科縣神社・文殊堂があります。埴科縣神社は、村社とその他社の4つの神社が明治41(1908)年に合祀され今に至っています。神社の周りには12のその他社が祀られ、文殊堂は慶長20(1615)年、大坂夏の陣から帰った3人の郷士により、生



観音寺

宇藤撰津守の北山古城跡は生仁館の本城といわれているが、唐崎城・朝日城跡ともいわれています。そのほかに北山の明聖砦の跡、南山の小城跡などが残っています。



文殊堂

萱へ持ち帰られ祀られています。お堂は2度再建され、現在は文殊ヶ丘に伝わる埴科縣神社の境内にあります。古代から残された古墳・塚・遺跡で生萱に残る塚は、將軍塚・大穴塚・老ノ塚・飯森塚・御蔵塚・遠塚・皇塚の古墳や塚穴が残り、生萱の七塚と呼ばれています。大きさは様々でも構造は「規則があるがごとく同じようだ」といわれ、その昔は居住の営窟、墳墓または経塚とも見えると言われます。

数百年前、山中の古窟は10か所もあり破壊されたり崩壊した遺跡もあったと伝わっています。遺跡では生仁遺跡・島遺跡・堂前遺跡が確認されています。

池が埋まったのではないかと考えられます。後に石原が生まれ、生萱集落として、居住環境に変わっていったのではないのでしょうか。紹介しました史跡の場所は、「生萱を知る会」発刊の『生萱ぶらり歴史さんぽ』に掲載の生萱村歴史ガイドマップを参考にしてください。



さらまたの機会に紹介したいと思います。

生萱 相澤 忠一

公民館報

ちくま

No. 95  
2023.12.1  
長野県千曲市



ふるさとウォークで地元を知ろう

10月22日(日)、戸倉公民館主催で「ふるさとウォーク 五部を歩く1」を開催しました。24名の参加があり、「戸倉史学会」の皆さんが講師となって、五部地区の歴史を学びました。写真は秋晴れの中、旧五加原行前で説明を聞いているところです。

《主な掲載記事》

- 特集 文化祭を開催！…… 2～3 (上山田・更埴地区)
- 各館の活動報告…… 4～6
- リレーエッセイ…… 7
- もっと知りたいふるさと…… 8 (生萱地区)

特集 文化祭を開催！

もっと知りたいふるさと

96

桜堂地蔵尊と奉賛会



桜堂地蔵尊

桜堂公民館には玄関に入っ  
てすぐ正面の室に高さ90センチ余  
り、男子2〜3人でやっと持  
ち上げることが出来る位の地  
蔵尊が安置されています。  
幾枚もの頭巾をかぶり、よ  
だれかけをして、子どものよ  
うなあどけない笑みを浮かべ  
たお地蔵さまで、子どもを守  
り、旅ゆく人々を守り、人生  
の救いを一手に受けた守護神  
として尊敬されているその姿  
は実に尊いものです。  
いつの時代のものか縁起を  
明らかにすることはできませ  
んが、言い伝えられてきた民  
話があります。

「桜堂のお地蔵さま」

昔、桜堂の八幡街道の中ご  
ろにある高礼所と年貢米の倉  
庫の脇を馬に乗った人が通り  
かかると急に馬がひっくり返  
り不思議に思っただけり返し  
みると、お地蔵さまが出てき  
ました。間もなく桜堂の村人  
によって地蔵堂が建てられ、  
祀られるようになりました。  
ある時、「お地蔵さま、雨  
が降らねーで困っています。  
どうか雨を降らせてください  
」と、雨乞いをお願いをす  
ると、お地蔵さまは、お百姓  
さんの身代わりになって川に  
沈まれました。すると不思議  
なことに、たちまち雨が降り  
出し、お百姓さんは助かりま  
した。こうしていつの間にか  
「身代り地蔵さま」と呼ばれ  
るようになりました。  
またある時は、乳が出なく  
て困った母親が、お地蔵さま  
にお願いをしたところ、たち  
まち乳が出るようになった  
り、子どもの病気が流行って  
多くの子どもが大変苦しんだ  
ことがありましたが、お地蔵  
さまにお願したら、たちま  
ち病気が治って元気になった  
こともありました。村人は  
大変喜び、「身代わり地蔵さ  
ま」を「子育て地蔵さま」と  
も呼ぶようになりました。

「地蔵尊堂と奉賛会の歴史」  
安永5（1776）年の古  
文書に「地蔵尊堂一石二斗海  
禅」とあります。これにより  
既に地蔵尊に堂守がいたこと  
が分かります。



円になって数珠を回します

桜堂公民館はもともと尼寺  
で地蔵尊も建物の中に安置さ  
れていました。堂守がいなく  
なり桜堂区が公民館として使  
用するようになると、明治33  
（1900）年、区所有の大般  
若経40巻と十六善神の軸を満  
照寺に寄附し、その感謝状が  
今も地蔵堂に掲額されていま  
す。  
昭和58年10月、公民館改築  
の際、既設の地蔵尊堂を建て  
増しするため、取り壊した地  
蔵堂に2メートル程の板の背面に  
「文化二一十月新添満照十九  
代知禅叟」と記された文字を  
認めました。知禅とは満照寺  
中興の英僧のことで、これら  
のことから、かなり古くから  
住民と密着し、現在まで守護  
されてきたことが伺えます。  
昭和59年3月、奉賛会が組

織され、維持管理及び奉賛行  
事の継承が図られてきまし  
た。

「奉賛会の行事」

春・秋の彼岸の中日に行う  
「地蔵尊念仏会」では、春は  
小学6年生、秋は小学1年生  
を招待して、年長者の音頭に  
よる「カンカン」という鉦の  
音とともに、数珠の数珠を参  
列者が「南無阿弥陀仏」と唱  
えながら回します。特大の玉  
が回ってきたら額につけて拝  
み、人々の無病息災をお祈り  
します。

これからもお地蔵さまに見  
守られながら、このような行  
事を継承し、お地蔵さまを敬  
い、大切に、大切に守って参  
ります。

奉賛会会長 田中 幸俊  
写真提供 市川 泉(副会長)  
参考資料「植生の民話」



公民館報  
**ちくま**  
No. 96  
2024.2.1  
長野県千曲市

祝！成人おめでとう  
1月7日（日）、桜堂の桜あんずホールで、令和5年度  
千曲成人式が挙行されました。対象者 629 名中、471 名の成  
人の皆さんが出席しました。  
福前山明舞子舞存会のオープニングアトラクションの  
後、式典が行われ、成人の姿には思い入れの大きな舞  
臺と千曲市庁舎大棟「発掘トマホーク」が出席し大変盛り  
上がりしました。  
上の写真は、最後に発掘トマホークと実行委員と会場の  
皆さんで記念撮影したものです。

特集 成人式

【主な掲載記事】  
特集 成人式 ..... 2〜5  
第 28 回更埴地区短詩型文学祭  
入賞作品・公民館からのお知らせ ..... 6〜7  
もっと知りたいふるさと ..... 8  
(桜堂地区)

もっと知りたいふるさと

97

山城の一生ー入山城を例に

はじめに

入山城跡は千曲市新山地区に所在します。大きな城ではありませんが、山城の教科書とすべき城跡です。ここでは、入山城を例に山城の一生をたどってみたいと思います。

1、山城をつくる

戦国時代になると、長野県の各地で山城が築城されました。特に屋代から上田地区は、全国でも有数の山城の集中地帯といわれています。多くの山城は、戦いに有利な地形で、街道や周辺の山城がよく見える場所を選んでつくられています。

川中島の戦いの初戦が八幡の地で繰り広げられたように、交通の要衝である千曲市域一帯をおさえることは、戦国武将にとって戦略上重要な意味をもっていました。

山城の施設で重要なのが堀と郭です。堀は敵の侵入、とくに横方向の移動を妨害するために、斜面にもうけられた施設です。入山城跡では4つの堀が岩盤を削ってつくられています。南側の斜面には堀がありませんので、四十八峠を越えてくる敵から新山周

辺を守るため、築城されたと考えることができません。

郭は頂上の平らな部分です。入山城では4つの郭と、土を盛り上げてつくった土塁がよく残っています。

2、山城をつかう

当時の城主は、普段から山城で生活していたわけではありません。普段は麓の平地に館を構え、戦いなどの有事が起こった時だけ、山の上の城に立てこもりました。

入山城では、儀式で一度だけ使われる「かわらけ」や「内耳土器」という、縄でつるして煮炊きをする鍋が採集されています。

こうした遺物は、山城が実際に使われたことを示す証拠となります。実際に戦場となつたかはわかりませんが、見張りをおこない、情報を伝達していたことは確かでしょう。

3、山城をつたえる

江戸時代になると、山城は役目を終えますが、地域の人々に忘れられたわけではありません。

入山城の廃城時期はよくわかりませんが、文政8(1825)年作成の新村絵図には「城山」と書かれており、



荒砥城から見る入山城ののろし場所  
令和5年10月22日(日)  
千曲市山城のろしリレー時に撮影

約200年前から城跡として認識されていたことがわかります。城跡には祠が建てられ、薪などを採取する身近な里山になりました。

再び注目されたのがアジア・太平洋戦争を前後する時期です。国威発揚のなかで、戦跡としての山城が知られるようになりまし。有名な山城には神社や展望台、国旗掲揚塔が建設され、これによって施設が破壊されてしまった城跡もあります。

入山城は、地元の人だけが知る城だったことが幸いし、大きな改変を受けることなく残りました。

戦後になると、各地でコンクリートでできた天守閣が再建されました。かつて城といえば、天守閣のことだったわ

けですが、平成時代の終わりに、正し歴史認識が広がり、山城の構造への注目も高くなってきています。

千曲市歴史文化財センター  
主査 平林 大樹

筆者が卒業した上山田小学校では遠足のほとんどが山登りでした。振り返れば、天神山周辺(入山城)、城山(荒砥城)、岩井堂山(出浦城)、葛尾山(葛尾城)、狐落城(坂城町)など子どもものころ、多くの山城に登っていたわけです。



宮坂武男氏による入山城の鳥瞰図(長野県立歴史館所蔵)

公民館報 ちくま No. 97 2024.4.1 長野県千曲市



久しぶりの小学生オセロ大会

2月3日(土)、現代公民館講堂で令和元年以来久しぶりの小学生オセロ大会が開催されました。大会には東小学校と現代小学校の1~6年生、20名が参加しました。

保護者の応援のもと低学年、中学年、高学年の3ブロックに分かれ、真剣に勝負が繰り広げられました。

主な掲載記事

- 公民館活動発表会 ..... 2~3
- 平和への思いを募集1ほか ..... 4
- 各公民館の主な行事 ..... 5
- 成人講座受講生募集 ..... 6~7
- もっと知りたいふるさと ..... 8 (新山地区)

もっと知りたいふるさと

98

仏事としての大頭祭  
〜かわる伝統・つくられる伝統〜

はじめに

武水別神社で毎年12月10日から14日（御供積みまで含めれば15日）にかけて行われる大頭祭は、400年以上の歴史と伝統を持つ北信地方有数の大祭であるとともに、八幡地区の冬の風物詩でもありません。とくに齋森神社から武水別神社までの頭人行列（お練り）は、古式ゆかしい神事として見どころのひとつとなっています。

一 頭人装束の変化

大頭祭では、各地区から選ばれた5人の頭人が、1日に1人ずつ、その年に収穫された新穀を神前に奉納します。頭人のうち三番頭が最も格が高く「大頭」と呼ばれ、大頭祭の名称もそれに由来します。また、明治時代以後は、新穀を奉納するという祭事にちなみ「新嘗祭」とも呼ばれています。

頭人一行5人（相散米役・

散米役・頭人・副頭・差添役）は、先達に続いてお練りしますが、そのうち頭人は首から水晶の勾玉をかけているため一目でわかります。ところが江戸時代の頭人は、勾玉ではなく、仏具である数珠を付けていました。これに関連して、頭人一行のうち相散米役と散米役は、江戸時代まではそれぞれ相数珠取、数珠取と呼ばれていました。

た。祭事の当日は、神となる頭人が、仏具を身にまとっていたのです。



現在：水晶の勾玉



江戸時代：数珠  
「八幡大頭祭絵巻」

二 夜練りの本来のすがた

夜練りとは、三番頭（大頭）だけが行える神事で、現在は、12日昼のお練りの翌日13日の夜に、頭人一行が大鳥居前から拝殿まで行列して進み、その後拝殿で御幣頂戴な



江戸時代の夜練り「八幡大頭祭絵巻」

どの神事が行われています。市指定文化財の「獅子面」「伎楽面」はこの時にしか見ることができません。

しかし、夜練りも江戸時代から大きく変わっています。江戸時代の大頭祭の様子を描いた「松代藩五大祭絵巻 八幡大頭祭絵巻」（長野市「真田宝物館」所蔵）を見

ると、法華経八巻を持った8人の後ろに頭人が続き、さらに頭人から出ている「善の綱」らしき綱を持つ女性たちが描かれています。この行列が本殿を3周したのち、拝殿で法華八講が行われました。つまり、江戸時代までの夜練りは、「行道」+「法華八講」という仏事そのものだったといえます。実際、江戸時代の大頭祭は「御八講」とも呼ばれていました。現在でも御供積みで使われる「オハコピツ」（御八講櫃）にその名称を残しています。

なわりにく伝統とはなにか

このように、江戸時代までの大頭祭は仏事色の濃い祭事でした。これは神仏習合思想にもとづくものです。とこ

ろが明治時代になると、神道国教化のもと、仏教的要素を廃して「神事」として純化されるようになります。それにともない頭人の装束が変わり、大頭祭の呼び方も「御八講」から「新嘗祭」へと変わりました。つまり、いまの私たちは、変わってしまったモノ・コトを400年以上の歴史と伝統を持つ、古式ゆかしい神事として見ていることになりません。

「伝統」という時、少し立ち止まって見直してみると、新たな歴史の一面が見えてくることを、大頭祭の歴史はいまの私たちに教えてくれます。

千曲市武水別神社  
神官松田邸学芸員

中島 丈晴

公民館報 ちくま

No. 98  
2024.6.1  
長野県千曲市



八幡公民館のいきいき学級スタート！  
5月10日（金）、開講式に続き「いすに座ってやさしいストレッチ」と題して、スポーツ推進員を講師に健康講座が行われました。  
上の写真は、トレーニングチューブを使った運動です。みなさんでいい汗をかきました。

特集 わがまちの自慢

【主な掲載記事】

- 新分館長さんに聞きました ..... 2
- 令和6年度 分支部長・編集委員の紹介 ..... 3
- 公民館人事・公民館に期待すること ..... 4
- 特集 わがまちの自慢 ..... 5
- サークル紹介 ..... 6
- リリースイッセイ ..... 7
- もっと知りたいふるさと ..... 8  
(八幡地区)

もっと知りたいふるさと

99

「更級里」と刻まれた諏訪社

「さらしな」の地名に古来だけだいたくさんの人が心引かれてきたか調べ、約25年になります。江戸幕末生まれの佐良志奈神社(千曲市若宮)の宮司豊城直友さん(1815~1879)もそのことに関心を持ち、神社を発展させました。今は新しい祠に再建されましたが、分社の諏訪社の台座に直友さんが刻んだ文字「更級里」に、激動の幕末と明治を生きた直友さんの心持ちを感じたことがあります。

諏訪社は御柱祭が行われるので、氏子である千曲市の若宮、芝原区の人にとってはなじみがあります。山のあ

る若宮、芝原両区からそれぞれ1本ずつ伐り出し、みんなで引き回し、諏訪社の両脇に建てます。小さな社ですが、祠の裏面の刻字を見る



豊城直友さん肖像画

と、直友さんが幕末の嘉永7(1854)年に再建したことが分かり、その台座には「更級里若宮村」と刻まれていました。

私は特に台座に刻まれた「更級里若宮村」の文字に興味を持ちました。「更級郡」ではなく「更級里」。いまだこそ行政区名ではなく「〇〇の里」と書くのは一般的ですが、江戸時代です。「更級里」の方が、身近で親しみがあると考えたからではないでしょうか。

直友さんの時代にも御柱祭がありました。老若男女が集まる諏訪の神様の住まいだから、この文字を刻めば「さらしなの里」のイメージがより浸透し、定着するという願いがあったように思うのです。

ではなぜ、直友さんはそのようなことをしたのか。『戸倉町誌』によると、天保7(1836)年、直友さんが21歳のとき、近隣の八幡村(現千曲市)の八幡宮が延喜式内社の「武水別神社」と名乗るようになりました。「延喜式」とは、平安時代の各地の神社名を記した公文書の

ことで、延喜式内社とは朝廷に認められた由緒ある神社のことをいいます。

佐良志奈神社という名前も延喜式内社の一つですが、最初からそう名乗っていたわけではないようです。豊城家の古文書で「佐良志奈神社」と記すようになるのは1700年代半ばからで、以降はそれまでの「八幡宮」の呼び名と混在し、直友さんの生まれた1815年以降はすべて佐良志奈神社です。

直友さんが自分の神社の名前を強烈に意識するきっかけが、嘉永6(1853)年



2004年の御柱祭 左下に豊城直友さんが再建した諏訪社が見える



2004年当時の諏訪社の台座「更級里若宮村」と刻まれていた

開国を迫る米国のペリーの浦賀来航ではないかと思えます。その翌年に直友さんは諏訪社を「再建」しているのです。当時は日本の独自性を探求する国学が盛んだったので、直友さんも自分の神社の独自性について考え「更級里」と刻んだのではないのでしょうか。

そして直友さんは諏訪社再建から7年後の文久元(1861)年、佐良志奈神社の文字を刻んだ大きな社標を境内入り口に建立します(詳しくは館報32号もつと知りたいふるさと②「さらしな」地名遺産」を参照)。

直友さんは明治維新12年後の1879年に亡くなりま

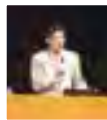
した。直友さんは幕末から明治にかけ自分の仕える神社が都人らの大きな憧れであり続けた「更級」にあることを、地域内外にアピールする仕事に取り組んだのです。

残念ながら、直友さん再建の諏訪社の祠は風化が激しく、2005年、新しい祠に建て直されました。直友さんの祠は側面にブドウの実やリスの模様が彫られており、デザインや遊び心に富むもので、今も新祠の後ろに置かれています。いずれ境内の土になります。「更級里」が刻まれた台座は、現在はありません。

さらしな堂(芝原) 大谷 善邦

公民館報 ちくま

No. 99 2024.8.1 長野県千曲市



市民講座を開催しました

6月30日(日)、信州の幸あみずホールにおいて、NHKでおなじみの気象予報士 岸井瑠行さんを講師にお迎えし「気象・防災情報の見方と使い方-気象災害から命を守るために-」と題して、市民講座を開催しました。367人の参加がありました。

特集 平和への思い

〈主な掲載記事〉

- 各館の活動報告 ..... 2-3
特集 平和への思い ..... 4-7
もっと知りたいふるさと ..... 8 (戸倉地区)

＜お知らせ＞
諏訪型文学祭の作品募集
成人式のお知らせ
文化祭のお知らせ

もっと知りたいふるさと

100

森將軍塚古墳とボランティア活動  
古墳の草取り作業100回達成

100回目を迎えた。

蒸し暑い土曜日の朝8時半に古墳館に集合、「森將軍塚古墳友の会」会員15人と初参加の地元中学生4人（部活動地域移行を担う千曲坂城クラブ歴史・科学専門部所属）で草取り作業を行う。古墳頂上は古墳館から130mの高さ、エジプトのピラミッドとほぼ同じである。草取り作業中に眼下を眺めると千曲川がうねり、遠くには飯縄山や戸隠連峰が見渡せ、暑さも忘れ爽快な気分となる。

古墳の草取り作業は、墳丘復元工事が完了した翌年の平成2（1990）年に40人の参加者によりスタートし、年3回実施している。雨天中止の時もあるが、諸先輩の努力が後輩に引き継がれ、今年の7月6日（土）に記念すべき



草取り100回記念撮影  
千曲坂城クラブ中学生とともに



草取りの様子

加があり、4月から活動が開始された。私は、平成13年に55歳で会社を退職した際に、市のガイド講座募集記事を見て参加したのが始まりである。退職後に復職したこともあり、土日

のみのガイドであったが、見学者からの「ありがとう」の一言が嬉しく、歴史好きもあり23年間続けることができた。

ガイドの思い出としては、ドイツ人女性が5人来て「さあ困った」と思っていると、その中に日本語ができる方がいて「私が通訳するから大丈夫ですよ」と言われ、ほっとしたことを覚えている。また、私の故郷の飯田から来た見学者の中に、たまたま中学の同級生がいたのに驚き、再会を喜んだこともあった。

森將軍塚古墳は、小学校6年生の社会科学教科書に掲載されていること、またテレビ等でも紹介していた機会が多いことから、見学者が増えている。隣に県立歴史館もあり、歴史を学ぶ場所として多くの学校が見学に訪れている。

この古墳の特筆すべき点としては、「三角縁神獣鏡」が発掘されていることである（詳しくは館報21号もつと知りたいふるさと④「森將軍塚古墳と三角縁神獣鏡」を参照）。長野県に前方後円墳は数多くあるが、この鏡が発掘された古墳は県内でここだけ



千曲市歌作者  
新実徳英先生(右)とともに

である。古墳時代前期にこの地域が畿内の大和政権とどのような関わりがあったのか、「邪馬台国」の場所の判明と合わせて研究が進むことを望む。

「友の会」の活動は、草取り、ガイドの他、6月の「お田植まつり」の綱張りや苗渡し、11月3日の「森將軍塚まつり」では古代道具の指導、しめ縄作りの指導、古代米販

売なども行っている。秋には研修旅行も行い、県外のさまざまな古墳を見学に行くが、森將軍塚古墳のように葺石を積み、築造当時に復元した古墳は少ない。近年、先輩方が高齢により活動に参加できなくなり、また、新たなボランティア希望者が少なく、古墳館では日程を組むのに苦慮している。毎年1〜3月に養成講座を開催しているので、墳上で眼下を眺め、ロマンを感じながらガイドをしてみませんか。

見学者から「ありがとう」の一言を喜びに感じて！  
森將軍塚古墳友の会  
相談役 鎌倉治雄

公民館報  
ちくま No.100  
2024.10.1  
長野県千曲市

公民館報100号を迎えました



《主な掲載記事》  
公民館報 100号に寄せて ..... 2~3  
各公民館の紹介 ..... 4~5  
特集 夏休みの思い出 ..... 6~7  
楽しかった夏山ハイキング ..... 8~9  
戸倉・上山田文化祭のお知らせ ..... 9  
サークル紹介・わがまちの自慢 ..... 10  
リレーエッセイ・成人式実行委員会開催 ..... 11  
もっと知りたいふるさと(図代) ..... 12